



天塩川歴史資料館

旧役場庁舎を整備した「赤レンガ」の名称で親しまれる資料館

「天塩川河川資料館」は「赤レンガ」という愛称で親しまれていた昭和26年(1951年)建築の旧役場庁舎を整備し、平成元年(1989年)に開館しました。酷寒の地で長く耐えてきた堂々たる風格の建物は、歴史資料館にふさわしい佇まいです。

展示されている資料は約2000点で、「川と海の暮らし」「原野の暮らし」「街の暮らし」などの歴史的展示、「知を啓(ひら)き、時代を拓く」とした教育・文化資料、天塩町の姉妹都市であるアメリカ合衆国アラスカ州ホーマー市関連の「北方圏への夢」と、テーマ別に分けられています。この中で、ひと際目を引くのが「長門船」の展示です。明治33年(1900年)初春、約40万石(米に換算して約100俵ほど)積みみの船1艘を造り、長門丸と命名し、運航させたのが起源で、それから天塩川を運航する舟は、すべて「長門」と呼ぶようになりました。道路や鉄道が整備されていない時代、天塩川は貴重な交通路であり、下りには農産物、薪炭、上りには米、味噌、酒、呉服、雑貨などの生活物資、移住民の荷物を積んで上流部との往復をしていました。上流は士別市を起点とし、当時日本で一番長い河川航路ではなかったかと言われています。昭和24年(1949年)頃まで運航されていましたが、陸路の発達とともにその使命を終えることとなりました。現在、展示されているものは2分の1に復元されたものです。

このほかにも、天塩川を知る上で興味深い展示が数多くあり、その一つ一つから先人たちの思いが伝わってきます。また、同館には特別展示室があり、定期的に絵画や写真展なども行っています。

見どころ

天塩川の河口と上流部の開拓地を、貨客を乗せて往来した「長門船」を、2分の1の大きさと復元し展示しています。天塩川は漁業や木材などの町の産業とも深い関わりがありました。天塩川とともに発展してきた当時の町の繁栄の様子がうかがえます。

ポイント

「川と海の暮らし」「原野の暮らし」「街の暮らし」など、テーマ別に2000点を超える資料を展示しています。資料のすべては天塩町内住民から提供されたもので、その一つ一つから先人たちの思いが伝わってきます。

五感で感じる！ 風土資産の魅力



同館の特別展示室には、定期的に絵画や写真展などを計画し、住民の目を楽しませています。年間2,000人以上が来館する天塩川歴史資料館は、天塩の歴史を振り返り、そして明日を考える「学び舎」として多くの人々に親しまれています。

■基本情報 (R3.5)

住 所：天塩郡天塩町新栄通6丁目
T E L：01632-2-2071
開館期間：毎年4月20日～10月31日
開館時間：午前10時～午後5時(最終入館午後4時30分)
休 館 日：基本月曜日(5・6月の第1・3週、7～9月、
振替休日の場合を除く)
入 館 料：200円(高校生以下無料)
問い合わせ：天塩町教育委員会(01632-2-1026)